

つかさどる人の NEWS

NO.27

2012.2 発行

(財)日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244 <http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

広域連携で実現する

自然と共存する持続可能な地域づくり

—生態系の恵みを着実に保全し、賢く活用する—

現在、関東地方では兵庫県や福井県につづき、コウノトリ・トキが舞う大空を取り戻そうとする壮大な挑戦が始まっています。コウノトリは広い行動範囲を持つ大型の水鳥で、多様な自然環境を利用し豊富な餌動物を必要とするため、広い範囲で健全な生態系が維持されていなければ生きていくことができません。かつて全国で見られたこうした鳥が野生下で絶滅したという事実は、この国に健全な生態系がなくなってしまったことを示しています。

私たち人間もまた、健全な生態系なくして健全で持続可能な社会をつくることは叶いません。このことはもはや国際的な共通認識となっており、世界各地の国や自治体で自然と共存した地域づくりが実践されています。

こうしたなか、私たちの協会が全面的に支援して関東地方の4県にわたる29市町村が「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」を発足させ、国や企業、NGOなどさまざまな主体と連携しながらコウノトリ・トキをシンボルとした自然再生と地域振興・経済活性化を目指すエコロジカル・ネットワークに取り組んでいます。

ここ最近の厳しい地方財政の状況では、1つの自治体だけで取り組むには限界があります。しかし、他の自治体と連携を図ることで、限られた予算でも効果的かつ効率的なプロジェクトが可能となるとともに、国からの支援も受けやすくなります。

これからは、行政境を越えた広域連携のもとで自然と共存した美しい地域づくりを進め、その枠組みの中でそれぞれのまちの特色を出していく視点が重要です。



自治体の広域連携による自然と共存する持続可能な地域づくり

当協会が事務局を担い、推進支援する3つの広域連携プロジェクトをご紹介します。

4県29市町村

関東地域 コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり

近年の都市化の進行にともなう自然の減少や劣化を受け、関東地域ではコウノトリ・トキをシンボルとした豊かな自然を保全・再生して、つなげていく、エコロジカル・ネットワークの形成を図るために、さまざまな主体による広域的な連携が始まりました。

コウノトリ・トキの野生復帰を通じた地域の振興や経済の活性化についても併行して取り組み、関東各地で『コウノトリ・トキが舞う魅力的な地域づくり』を実現していきます。

昨年度には、このプロジェクトを地域から推進していくために、「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」を発足し、現在4県にわたる29市町村が加盟しています。

先行モデル自治体の野田市（千葉県）では、これまで谷津田環境が広がる江川地区を中心とした自然再生や、環境に配慮した農業の推進など、自然と共存する地域づくりを10年来にわたって進めています。平成24年度はそのシンボルとしてのコウノトリの放鳥に向けた飼育・繁殖を開始する予定です。栃木県小山市、埼玉県鴻巣市・北本市、千葉県いすみ市が、これに続く事業の展開を予定しています。関東全域で自然と共存した地域づくりが広がっています。



（写真左）平成22年度から野田市で始まった冬期湛水水田（冬みずたんぼ）。早速、ドジョウやトンボなどの生きものが見られるようになり、網を持った子どもたちも帰ってきました。

（写真右）市が地域の農家や市民団体と連携して再生してきた野田市・江川地区。今秋、野田市の自然と共存する地域づくりのシンボルとして、ここでコウノトリの野生復帰事業が着手されます。



4県6市町

渡良瀬遊水地 ラムサール条約湿地登録に向けた連携

渡良瀬遊水地は、4県6市町にまたがる本州以南最大の湿地です。広大なヨシ原を有し、多くの生きものを育むこの湿地では、湿地環境の保全・再生と治水機能の強化が両輪となってラムサール条約登録に向けた取り組みが推進されています。

今年6月にルーマニアで開催されるラムサール条約締約国会議で、渡良瀬遊水地を国際的に重要な湿地として登録するため、国内の登録湿地では初となる河川法を湿地保全の法的担保として、6つの自治体が連携して取り組んでいます。

今後は、湿地からのさまざまな生態系サービスを持続的に活用するワイズユースや、ラムサール条約の国際的なブランド力を活かした地域振興・活性化について協議の場を設定していくことになります。



日本最大級のヨシ原が広がる渡良瀬遊水地（第2調整池）。自然資源の提供だけでなく、洪水調整機能やレクリエーションの場などさまざまな恵みを与えてくれる湿地の持続的な保全と利用の推進が検討されています。



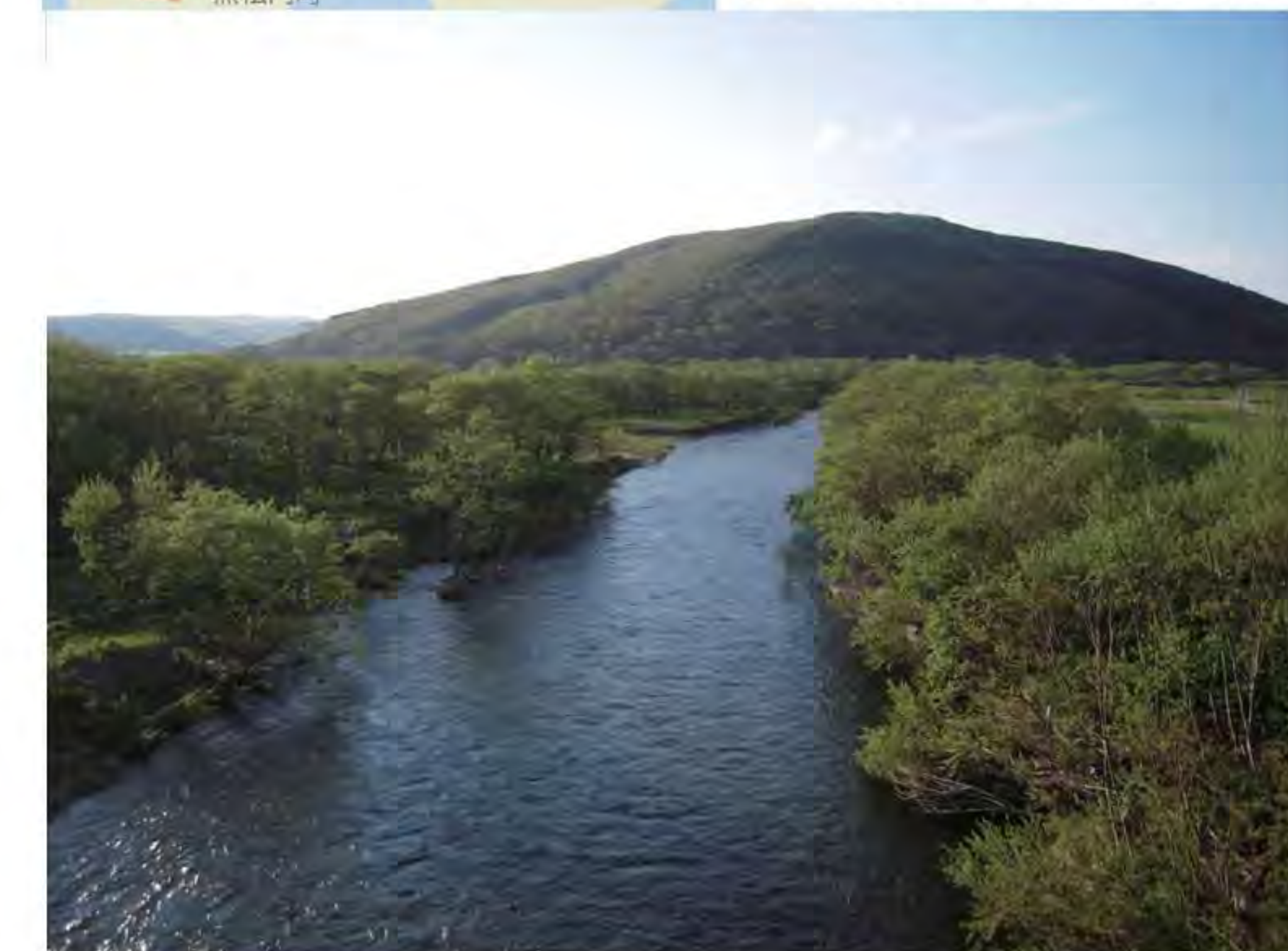
6町村

しりべし

北海道 後志地域 広域連携による生物多様性保全と経済活性化の取り組みモデル



黒松内町を流れる清流・朱太川。河川のみではなく、流域単位での自然のつながりを面的に考えていきます。



北海道・道南の後志地域では、今年度、6町村で構成される協議会を発足、日本最大の淡水魚「イトウ」をはじめ、さまざまな生きものがすみ雄大な自然を舞台にして、行政境を越えた「森・里・川・海のつながり」を保全・再生する取り組みがはじまっています。今後は、さらに参加自治体を増やし、地域全体の農林水産業や観光業の発展につなげていく予定です。

協議会の事務局を務める黒松内町では、約1世紀にわたり、地域住民の手で受け継いできた北限のブナ林「歌オブナ林」をシンボルとした、自然と共存するまちづくりを進めています。

こうした取り組みをはじめ、北海道では生物多様性と経済を調和する試みがはじまりました。

シカゴ・ウィルダネスは、シカゴ市周辺の市町村および州、アメリカ環境保護庁、民間合わせて250以上の連合組織で構成されています。

ここでは、2060年までに、シカゴ市域の陸地の30%を「自然のインフラ」として保護・回復させることを最も重要な将来ビジョンに掲げています。この30%という数値は、地域本来の生物多様性を回復させるために、生物学、地質学、水文学等のさまざまな専門家が検討を重ねて設定した値です。



2004年から主に行政の基金を活用して「自然のインフラ」となる土地の確保をスタートし、これまでに20%の土地が保護・回復されています。保護地の維持管理や普及広報は主に環境NGOが担当するなど役割分担のもとで取り組んでいます。

自然地の確保・回復は持続可能なまちづくりのための基本です。日本でも行政と民間がしっかりと連携し一体となって、取り組んでいく必要があります。

NGOの協力を得て復元・管理されている在来種の野草による草原。後ろはシカゴのビル群。

コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりに向けた国の事業推進と支援を要望

「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」は、平成23年10月31日、野田内閣総理大臣、輿石民主党幹事長、前田国土交通大臣等に対し、「関東地域エコロジカル・ネットワーク形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり事業の推進に関する要望書」を提出しました。主な要望事項は、以下の3項目です。

- ①国土交通省による関東地域エコロジカル・ネットワーク形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり推進事業の継続的な実施
- ②農林水産省による冬期湛水田とビオトープ水田、魚道の設置や環境保全型農法（有機・減農薬栽培）の推進支援
- ③環境省・文化庁によるコウノトリ・トキの野生復帰事業の推進支援

当協会は、今後ともこうした自治体の広域連携による地域づくり活動を積極的に支援していきます。



内閣総理大臣官邸にて左から、池谷当協会会長、末松義規・内閣総理大臣補佐官、吉原英一・坂東市長、長浜博行・官房副長官、根本崇・野田市長、原口和久・鴻巣市長、山崎山洋・印西市長、太田洋・いすみ市長

グランドデザイン総合研究所は、自然と共存する美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。

お気軽にご連絡ください。

(財)日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所 tel.03-5951-0244

- 50年先、100年先の世界にひとつのグランドデザイン作成
- 海外の先進事例に関する情報提供
- 国の事業を活用した自然と共存する持続可能なまちづくりの提案
- 海外視察ツアーの企画・コーディネート
- 行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣
- あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催